

# 水蔵場D遺跡発掘調査報告



2000年11月  
小杉町教育委員会

# 歴 史 年 表

時 代	年 代	主 な 出 来 事	富 山 県 内 の 主 な 遺 跡
紀元前時代	先土器時代	・洞窟などを中心に移動生活を営み、狩猟や採集によって食糧を得る ・石や骨で道具を作る	直坂遺跡（大沢野町） 新造池A遺跡・草山B遺跡（小杉町） 白岩敷ノ上遺跡（立山町）
	草創期 12,000年	・海や川に近い小高い土地に住み、狩猟・漁労・採集生活を営む ・土器が作られ始め、「煮る」ことが可能となり、多彩な食生活を営む	白岩尾掛遺跡（立山町）
	早期 9,500年	・堅穴住居が作られる	日谷岡ノ城北遺跡（小矢部市） 桙ヶ瀬遺跡（魚津市）
	前期 7,000年		南太郎山I遺跡（小川町） 小泉遺跡（大門町）・朝日貝塚（氷見市）
	中期 5,500年	・気候の温暖化に伴い海面が上昇する（開文海進） ・装飾性豊かな土器が作られる ・定住化により集落が形成され始める ・鍛鉄、堅果類の栽培始まる	不動堂遺跡（朝日町）・境A遺跡（朝日町）・北代遺跡（富山市） 上野遺跡・水上谷遺跡（小杉町） 桙ヶ瀬遺跡（小矢部市）
	後期 4,000年		井口遺跡（井口村）・本江遺跡（滑川市）・五百歩遺跡（福光町）
	晚期 3,000年	・九州地方に稻作と金属器が伝わる	勝木原遺跡（高岡市）・丸山A遺跡（上市町）
	弥生時代	・稻作のため低地に村を作り、収穫した穀物は高床式倉庫に保管する	石塚遺跡（高岡市）・下村加茂遺跡（下村）
	中期 200年		針原東遺跡・伊勢領遺跡（小杉町）
	後期 100年	・57年 後の奴国が後漢に使いを送り金印を授かる	酒山遺跡（小杉町）・江上A遺跡（上市町）
紀古墳時代	前期 100年	・239年 邪馬台國の尊称呼が魏に使いを遣る	南太郎山I遺跡（小杉町）・杉谷4号墳（富山市）
	300年	・巨大な前方後方(円)墳が築かれる	柳田布尾山古墳（氷見市）・谷内16号墳（小矢部市）
	中期 400年	・朝鮮半島より須恵器伝わる	稚兒塚（立山町）
	後期 500年	・富山で須恵器が焼かれ始める ・593年 聖德太子が政聟となる	五歩一古墳群・変電所西古墳・南太郎山I遺跡（小杉町） 宿屋古墳（小杉町）・浜山玉づくり遺跡（朝日町） 若宮古墳（小矢部市）・園カンチ遺跡（氷見市） 流通業務団地No.6遺跡（大門町）
紀飛鳥時代	645年	・大化改新	猪川城が平横穴墓（高岡市）
	7世紀末	・越中國成立	城が平横穴墓（福岡町）
	701年	・大宝律令の制定	小杉丸山遺跡（小杉町）
元奈良時代	710年	平城京の遷都	辻遺跡（立山町） 小杉通乗耕圃地内遺跡群（小杉町） 小杉上野南遺跡群 星敷野遺跡（小杉町）
	746年	大伴家持を越中守に任命	
	794年	平安京に遷都	天池C遺跡・赤坂C遺跡・水龍塚D遺跡（小杉町） じょうべのま遺跡（入善町） 高瀬遺跡（井波町）
	1090年	院政の開始	日の宮遺跡（小矢部市）
	1167年	平清盛が太政大臣となる	江上B遺跡（上市町） 京ヶ崎古窯跡（八尾町）
	1192年	源賴朝征夷大将軍となる	
	1274年	文永の役	萩田兼藤中世古墓（氷見市）
	1281年	弘安の役	日の宮城跡（小杉町）
	1333年	鎌倉幕府滅亡	
	1334年	建武の新政	
南北朝時代	1338年	足利尊氏征夷大將軍となる	
	1392年	南北朝統一	
	1467年	応仁の乱	増山城跡（砺波市）
	1488年	加賀一向一揆	
	1543年	種子島に鉄砲伝来	阿尾城跡（氷見市）
	1573年	室町幕府滅亡	
	1579年	佐々成政富山城入る	
室町時代	1582年	本能寺の変	弓庄城跡（上市町）
	1585年	豊臣秀吉開白となる	
	1585年	越中三郡(利波・射水・婦負)が前田利長の領地となる	安田城跡（婦中町）
	1600年	關ケ原の戰	越中滑戸後案跡（立山町・上市町）
安土桃山時代	1603年	徳川家康征夷大將軍となる	
	1639年	富山藩分藩、城主前田利常	
	1688年	明治維新	
江戸時代			
近世			

青字 小杉町の遺跡

赤字 国指定史跡及び遺物重要文化財指定遺跡

## 序

遺跡とは、人が土地に印した活動の跡です。すなわち地中に埋もれた町や村の跡、古墳等の墓跡、土器や炭を焼いた窯跡等すべて遺跡です。地中に埋もれた遺跡から当時の人々の生活を復元することが発掘調査の目的です。実際に発掘調査により出土した石器や土器などを目の当たりにすると太古の人々の優れた知恵と創造力に驚かされ、自然に考古学の世界へと誘われます。まさに文献研究にはないモノが示す醍醐味です。しかし、いざ発掘調査報告書となりますと専門用語に溢れ、わかりにくいものです。

そこで本書は、水戸場D遺跡の歴史的位置や、炭焼窯について判かりやすくすることに心がけました。ぜひ、一般の皆様にも、足下に眠る歴史に興味を持って頂き、大地に刻まれた過去からの手紙をごいっしょに紐といいてみたいと思います。

最後に、調査にあたり格別なご理解とご協力を賜った関係者の皆様に深く感謝いたします。

平成12年11月

小杉町教育委員会 教育長 稲葉茂樹

## 例 言

1. 本書は富山県射水郡小杉町入会地字義谷に所在する水戸場D遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、浄土真宗親鸞会正本堂建立に先立ち、浄土真宗親鸞会の依頼を受け小杉町教育委員会が実施した。
3. 調査期間、面積、調査担当者は次のとおりである。  
分布調査 昭和61年4月16日 分布調査面積11.5ha (延べ1日) 富山県埋蔵文化財センター主任 岸本雅敏(現同センター所長) 外6名  
試掘調査 昭和61年5月22日~昭和61年6月6日 発掘調査面積 20m<sup>2</sup> (延べ4日) 富山県埋蔵文化財センター主任 岸本雅敏(現同センター所長) 同文化財保護主事 久々忠義(現同センター係長)・島田修一(現同センター主任)  
本調査 平成12年5月15日~平成12年5月26日 発掘調査面積 80m<sup>2</sup> (延べ10日) 小杉町教育委員会生涯学習課主事 須田尚美
4. 調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、生涯学習課長即ち庄司が統括し、調査事務を文化財保護係長古城久則が担当した。
5. 撮影の実施にあたって富山県埋蔵文化財センターから資料提供及び助言、浄土真宗親鸞会にご協力を頂いた。
6. 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。
  - (1) 方位は真北、水平基準は海抜高である。また、基準点は調査区の形狀と地形の傾斜にあわせて打ち、X軸は真北から31°50' 東へ偏る。
  - (2) 本書での十幅の色調は、小出正忠・竹原秀雄編著1967『新刊標準十色帳』日本色研業株式会社を用いた。
7. 記録資料は小杉町教育委員会が保管している。
8. 発掘作業・報告書作成作業参加者は次のとおりである。(五十音順)  
酒井さだ子・坪田和子・土田ユキ子・久野静枝・岡 一美・山口チズ子・吉沢康子

## 本文目次

### 序 文・例 言・目 次・年 表

I はじめに	1	1 1号炭焼窯	4
1 遺跡の立地	1	Ⅲ まとめ	4
2 遺跡周辺の歴史的環境	1	引用・参考文献	
3 発掘調査に至るまで	1	写真図版	
II 遺構		挿図・表目次	
第1図 周辺の炭焼窯	2	第1表 炭焼窯一覧	3
第2図 炭焼窯の各部位名称	4		
第3図 1号炭焼窯	5		

## I はじめに

### 1 遺跡の立地

小杉町は富山県のほぼ中央に位置する、南北約12km、東西約5kmの町である。町の北部は射水平野、南部は射水丘陵に2分され、今回調査を行った水蔵場D遺跡は、南部の射水丘陵上に位置する。

射水丘陵の形成は、新第三紀(約6500万年前から約200万年前)にまでさかのばる。この時期の北陸地方は、大規模で激しい火山活動が発生し、北陸一帯は火山活動による大量の火山岩や火山碎屑岩で覆われ、やがて誕生した古日本海が北陸地方を覆い、海底には砂岩や泥岩などの厚い地層が堆積した。これらの地層が現在、富山・石川・福井県北方の丘陵の主体を構成し、また平野の地下に分布している。第四紀(約200万年前)に入ると火山岩や火山碎屑岩の上に十二町層(大桑累層)などが堆積して、その後砺波山丘陵東縁に位置する埴生累層を南北に切る石動断層の活動によりその西側に宝達丘陵の隆起帶、東側に射水平野の沈降帯が造られ、富山平野(広義)の西縁が形成された。

この時期、現在の呉羽山丘陵東縁を走る呉羽山断層の活動により、西側は隆起して呉羽山丘陵を、東側は沈降して富山平野(狭義)を形成した。なお呉羽山断層の南の縁には高清水断層が位置し、富山県南部の丘陵と山麓地帯の中新統を切るように射水丘陵が形成されている。この丘陵部分は、富山市・婦中町・砺波市の丘陵部と連続し、砺波市の標高170mの嘉礼谷に端を発する下条川が射水丘陵及び射水平野を開拓しながら日本海へ流入する。

今回の調査位置は、現在射水丘陵の北端、下条川の右岸に位置し、周囲を谷で取り囲まれた約5haの、独立丘陵である。このような地形が操業当時からのものと仮定した場合、下条川を利用すると当時はまだ広大であった放生津潟(現富山新港)まで約5kmで容易に日本海へ出ることができ、丘陵内部の炭焼窯や製鉄炉に比べ原材料の搬入や製品の搬出においてかなり有利であったと推測できる。

### 2 遺跡周辺の歴史的環境

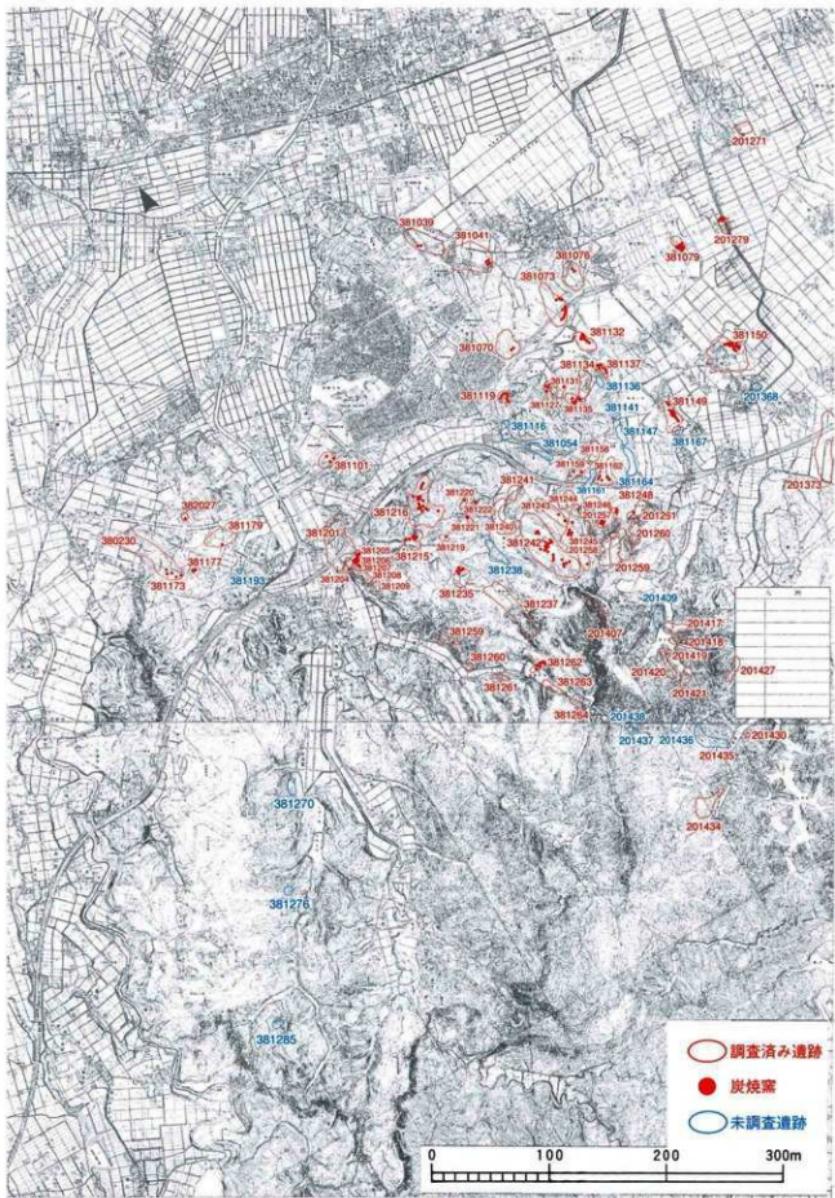
現在町内には296ヶ所の埋蔵文化財包蔵地がありそのうちの約42%、124遺跡が炭焼や鉄製錬に関わった生産遺跡で、射水丘陵あるいは射水平野南部に位置する。炭焼窯と製鉄炉は併設されることが多く、その理由として、木炭は鉄精錬の過程で砂鉄溶解用の燃料として、また製鉄炉の防湿剤(製鉄炉は湿気を嫌うため地下にたくさん木炭を敷き詰め、その上に構築される場合が多い)として用いられるためと考えられている。また、射水丘陵に集中する理由として、密造りに適した粘性土と木炭となる樹木が同一の場所にあり、さらに精錬のための砂鉄も容易に採取・搬入できたと考えられる。特に、水蔵場D遺跡(381219)には、水蔵場日遺跡(381215)、天池C遺跡(381216)、上野南V遺跡(381205)、上野南II B遺跡(381206)が隣接するほか、周辺には国指定史跡である小杉丸山遺跡(382032)のほか、赤坂遺跡(381159)、赤坂A遺跡(381240)、赤坂C遺跡(381242)、石太郎G(381135)、石太郎H遺跡(381134)など多くの製鉄関連遺跡がある。これらの発掘結果から、長期にわたり射水丘陵において大規模な操業が展開されていたことが伺える。

### 3 発掘調査に至るまで

浄土真宗親鸞会が小杉町上野字瀧谷に所在する丘陵に本部を建設するに先立ち、富山県埋蔵文化財センターが昭和61年4月に分布調査を行い、同年5月~6月に試掘調査を行った。試掘調査は、水蔵場A・B・C・D、及び本堂建設部分について人力により幅1mないし、2mのトレンチを設け確認した。その結果、水蔵場A・B・C・D遺跡でそれぞれ炭焼窯を1基確認した。

そこで、発見された遺跡の保護に留意し施工するよう指導とともに、水蔵場D遺跡については、当初炭窯を切る形で予定されていた排水路を施工業者と協議のうえ、炭焼窯を迂回するように排水路の位置を変更し工事を行った。

しかし、平成10年に浄土真宗親鸞会から、水蔵場D遺跡の保存に関して小杉町教育委員会に対して協議の申し出があり、その結果正本堂建設に先立ち記録保存を行うこととなった。



第1図 周辺の炭焼窯

## 炭焼窯を有する調査済み遺跡

番号	遺跡名	所在地	後焼窯の数	調査の有無	時代	備考
201257	野川池A	山本	2基	平1年試掘・3年本調査	古代・奈良・平安	381246
201258	赤坂C	山本	9基	*	奈良・平安	381245
201259	野川池B	*	10基	平1年試掘・3年本調査	*	381249
201260	野田池C	*	4基	*	*	
201261	野田池D	山本	*	*	*	381248
201271	中老川B	中老川	2基	平2年一部試掘	*	
201279	中老川C	*	4基	平3年本調査	奈良・平安	
201373	北柳川-西ノ段	北柳川字土原	*	昭47年試掘・本調査	奈良・平安	
201407	兩神	山本字明神	6基	昭47年試掘・本調査	奈良・平安	
201417	室住池Ⅲ	山本	7基	平元年試掘	平安	
201418	室住池V	*	3基	昭47年試掘・本調査	奈良・平安	
201419	室住池Ⅳ	*	*	平元年試掘	*	
201420	室住池Ⅵ	山本字宮谷	1基	昭47年試掘・本調査	*	
201421	室住池Ⅶ	*	5基	*	奈良・平安	
201427	三瓶貴賀	二瓶字貴賀	4基	平元年試掘	奈良・平安	
201430	南大山堂跡	二瓶字山堂	1基	平4年本調査	奈良・平安	
201434	二瓶山跡群	二瓶字内山	11基	平2年本調査	*	
	小杉町					
381039	「下」字跡B	黒河新	2基	昭63年試掘・本調査	奈・古墳・奈	保存
381041	黒河西山	*	4基	昭62-平2年本調査	奈代・奈	
381070	高山	黒河字高山	2基	昭54年本調査	昭石-奈良	
381073	東山丘	黒河字東山	10基	昭54-57年本調査 72-83年試掘	西・内堀・奈	大部分保存
381076	表寺	黒河字表寺	2基	昭54年本調査 73-74年試掘	昭石-奈良	
381079	塚原A	塚原	8基	平3年本調査	奈良・奈良	
381101	南太陽山Ⅱ	南太陽山	3基	昭55-58年本調査	奈良・六浦	
381119	上野木坂A	黒河	7基	昭55年本調査	奈良・平安	
381127	石太郎I	*	4基	平3年本調査	奈良	
381131	石太郎J	*	1基	昭48年トキナガ	*	
381132	土代A	*	8基	昭56年試掘	昭石-磯・奈代・奈・平	保存
381134	石太郎H	*	1基	平2年一部試掘	古代	*
381135	石太郎G	*	6基	平2-3年本調査	奈良・平安	
381137	石太郎C	*	6基	昭56年本調査	昭石-空	
381149	草山B	山本新	10基	昭55-58年本調査	昭石-真・奈	
381150	椎土	椎土	13基	昭61年本調査	昭石-奈・奈	大部分保存
381158	人跡付N付B	黒河	3基	平2年-3年本調査	古代	
381159	赤坂	*	2基	昭59年本調査	平安	
381162	野川A	(野川)	5基	昭57年本調査	古代・奈良	
381173	小杉丸山	青井谷字丸山	5基	昭37-60年本調査	昭石-奈	保存
381177	小杉丸山No.32	*	2基	昭55年本調査	昭石-奈良	381032
381179	小杉丸山No.18	*	1基	昭54年モロモロ調査	昭石-奈・平	
381201	上野字高台	2基	昭45-47年本調査	昭石-奈		
381204	上野南I	*	1基	平元年本調査	奈良・古代	
381205	上野南II	*	2基	昭63-70年本調査	古・奈良	
381206	上野南II B	*	5基	平元年本調査	古・奈良	
381207	上野南III A	*	1基	*	古代・奈・中	
381208	上野南III A	*	12基	昭63年試掘	奈良・平安	保存
381209	上野南III B	*	*	*	*	
381215	水蔵場II	水蔵場	6基	平1年試掘・3年本調査	古代	
381216	犬池C	入会地字天池	18基	平1年試掘・3年本調査	奈良・平安	
	富山市					
381219	水蔵場D	水蔵場	1基	昭61年試掘	古代	保存
381220	水蔵場A	*	1基	*	*	*
381221	水蔵場C	*	1基	*	*	*
381222	水蔵場B	*	1基	*	近世	*
381235	切立池C	*	15基	平元・3年試掘	古代	
381237	穴ヶ谷池	人会地字赤坂	7基	平元年本調査	*	
381240	赤坂A	*	5基	昭63年本調査・ 72-73年試掘	*	
381241	赤坂B	*	1基	昭63年本調査・ 72-73年試掘	奈良・平安	
381242	赤坂C	平野	38基	*	*	
381243	赤坂D	*	11基	*	*	
381244	山本	上野	6基	平元年試掘	*	
381245	赤坂E	入会地字赤坂	26基	平元年本調査・ 73-74年試掘	奈良・平安	201258
381246	野田池A	山本字野川	12基	平3年本調査	古代・奈・平	201257
381248	野田池D	平野	1基	平元年試掘	奈良・平安	201261
381259	水蔵場E	入会地字水蔵場	6基	昭63年一部試掘	古代	保存
381260	水蔵場F	*	1基	*	*	
381261	鬼怒野池A	浮土寺	1基	*	古文・古代	*
381262	鬼怒野池B	*	6基	平元年本調査	*	
381263	鬼怒野池C	*	2基	昭63年-都試掘	*	保存
381264	鬼怒野池D	*	1基	*	*	*
	大門町					
382027	小杉丸山No.6	木戸字石松山	1基	昭56年本調査	日出・櫛・奈	
382032	小杉丸山	木戸字西新	1基	昭63年本調査 昭57-60年本調査	日出・櫛・中	
	炭焼窯を有する未調査遺跡					
番号	遺跡名	所在地	後焼窯の数	調査の有無	時代	備考
	富山市					
201368	山本	山本	1基	*	古文	
201409	奈住池II	-	1基	*	奈良・平安	
201435	坂下削I	二輪	13基	*	*	
201436	坂下削II	*	1基	*	*	
201437	坂下削III	*	1基	*	*	
201438	坂下削IV	*	1基	*	*	
	小杉町					
381054	大畠山シロ内蔵	黒河	6基	*	古代	
381116	大畠山シロ内蔵	平野	2基	*	*	
381136	大畠山シロ内蔵	黒河	1基	*	*	
381147	人跡ツバコ山	*	2基	*	*	
381161	大畠山ツバコ山	*	2基	*	*	
381164	大畠山ツバコ山	*	11基	*	*	
381167	房戸池	池多	1基	*	奈良・平安	
381193	小杉丸山No.27	青井谷字丸山	7基	*	古代	
381238	鶴打池B	平野	1基	*	*	
381270	新潟敷	新潟敷	1基	*	*	
381276	立神上場C	*	1基	*	*	
381285	西谷No.6	西谷	1基	*	*	
381141	大畠山シロ内蔵	山本新	1基	昭和45年奈良・中 昭和55年奈良・中 昭和65年奈良・中	昭和45年奈良・中 昭和55年奈良・中 昭和65年奈良・中	

③複数の市町村に遺跡がまたがる場合は他市町村の遺跡番号を備考欄に記載した

第1表 炭焼窯一覧

## II 遺構

### 1 炭焼窯

今回調査した炭焼窯の各部位の名称については第2図のとおりである。

#### 1号炭焼窯

水蔵場D遺跡で確認した遺構は、炭焼窯1基である。遺構の遺存状況は、昭和61年に行われた試掘調査時の平面図及び、記録写真によると既に発見当時水田により前部は削平を受け、消失していたようである。

炭焼窯の推測される前部の標高は33.20m、奥壁煙出しの検出面の標高は36.00mで、南向きの約10~15°の緩やかな斜面に位置する半地下式の炭焼窯である。炭焼窯は等高線に対しほば垂直に構築され、左側壁から右側壁に向かってわずかに斜面が傾斜し、主軸はN=30°~Eに傾く。

窯体は長さ7m、奥壁部分の幅約1m、中央部分の幅約1m、焚き口部分の幅約0.65mと、小型の炭焼窯である。窯体床面は焚き口付近が約10°、中央部分から奥壁に向けて約5°傾斜し、奥壁煙出し付近ではわずかに下降し弓なりになる。床面は1枚で、奥壁部分から焚き口にかけて炭化物の層が認められた。奥壁・側壁は剥落している部分がほとんどで、工具痕は確認できなかった。

煙出しは、奥壁煙出し1ヶ所、側壁煙出し1ヶ所を検出した。煙出しはいずれも地上と窯体内からの2方向から掘り込み貫通させている。煙出しの底はいずれも床面よりも低い。

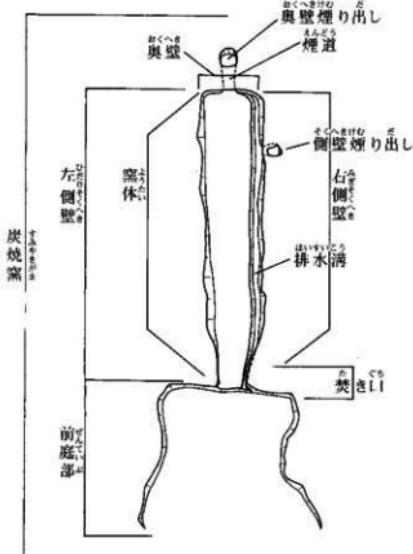
排水溝は、奥壁の奥壁煙出し煙道口脇に端を発し左右に床面の端に沿って、焚き口付近まで掘られている。

## IIIまとめ

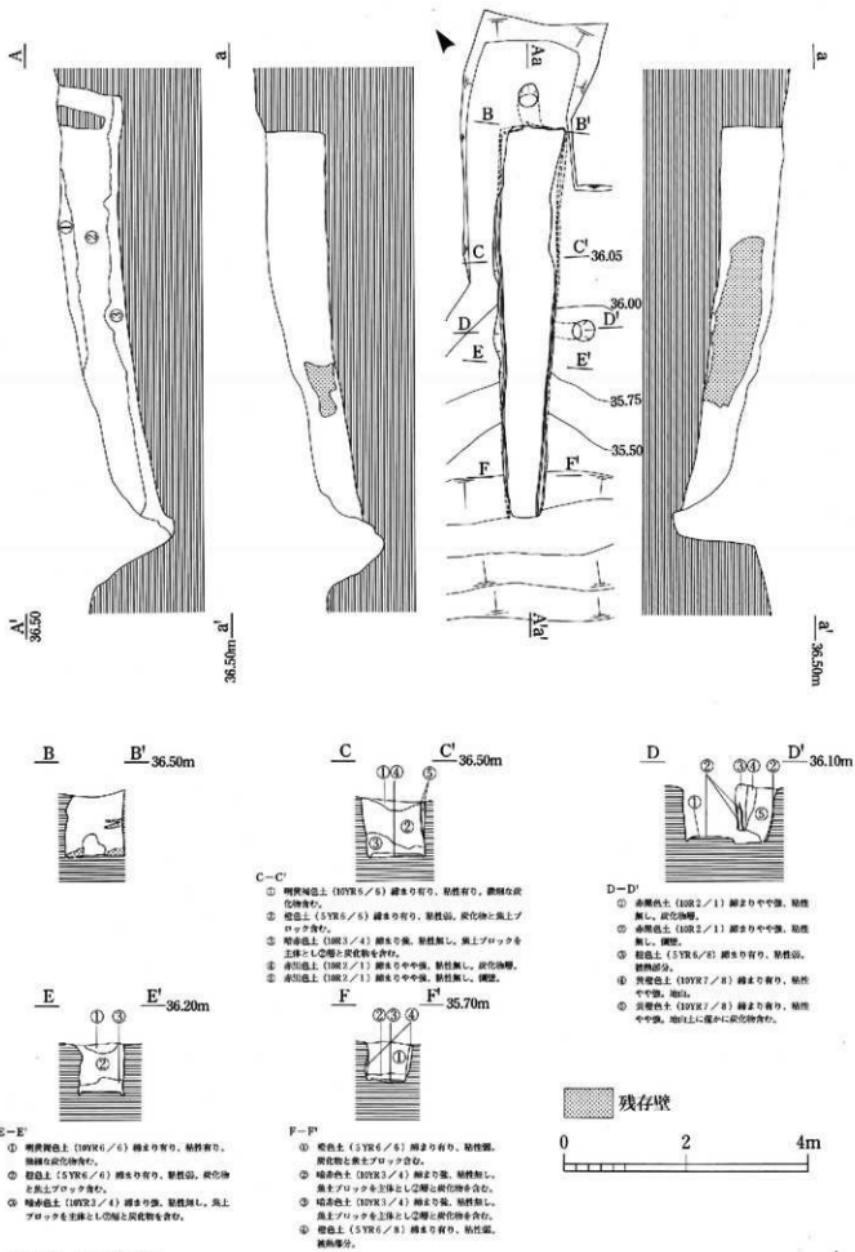
水蔵場D遺跡からは土器の出土がなかったため、1号窯の時期について断定することはできないが、炭焼窯の規模・形態は、本遺跡の北西約250mに位置する水蔵場H遺跡と非常に類似する。この水蔵場H遺跡の11号窯の奥壁煙出しで煙道の泥止めに使われていたと考えられる場の年代から8世紀後半~9世紀前半と考えられる。

### = 参考文献 =

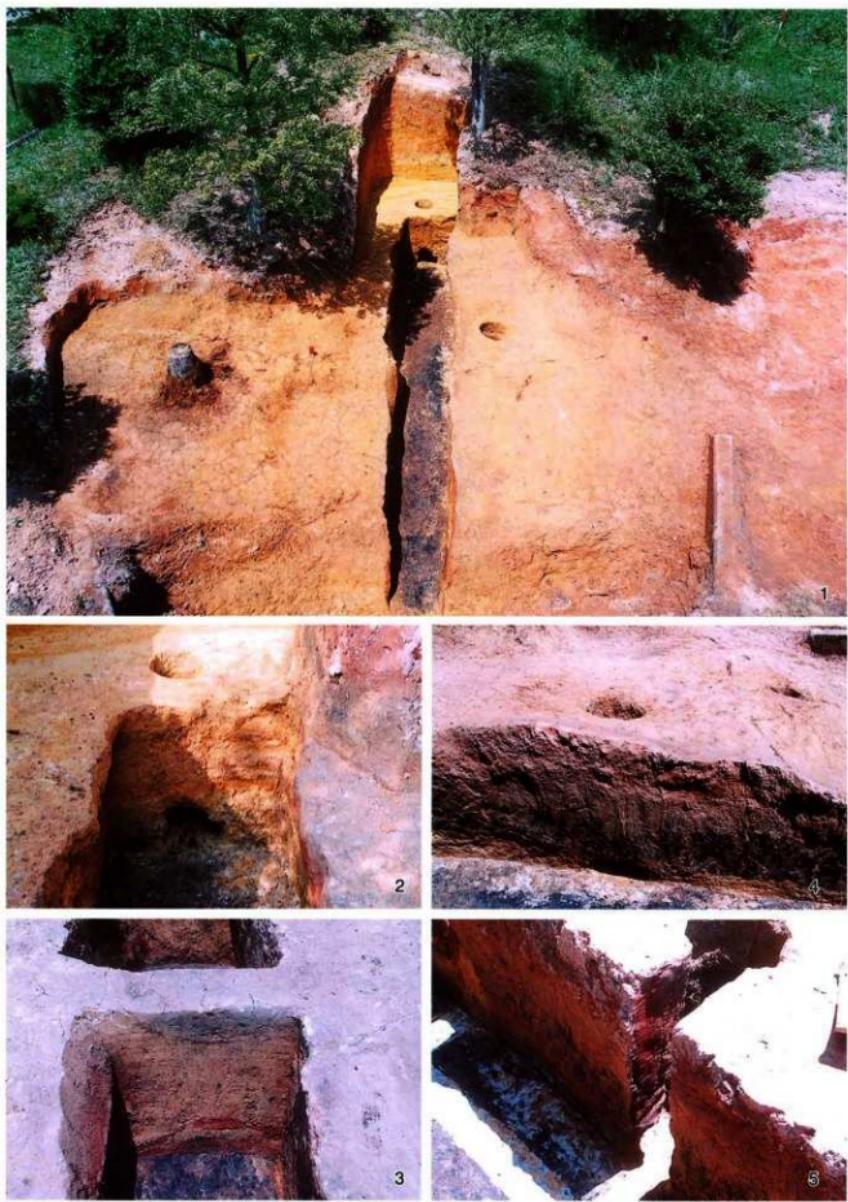
- ア 「赤坂遺跡発掘調査報告」 1997 小杉町教育委員会
- イ 「石太郎G遺跡 石太郎J遺跡」 1992 富山県埋蔵文化財センター
- 「石太郎I遺跡 石太郎J遺跡」 1992 富山県埋蔵文化財センター
- ウ 「上野南遺跡群発掘調査報告」 1991 小杉町教育委員会
- コ 「小杉町東山II遺跡発掘調査報告」 1995 小杉町教育委員会
- 『小杉町教育委員会埋蔵文化財発掘調査一覧 1990年度』 1991 小杉町教育委員会
- ミ 「南中山D遺跡発掘調査報告書」 1991 富山県埋蔵文化財センター



第2図 炭焼窯の各部位名称



第3図 1号炭焼窯



図版 1. 1号炭焼窯 2. 奥壁 3. E-E'土層 4. 側壁煙出し 5. 側壁煙出し断ち割り

## 報告書抄録

ふりがな	みずくらばでいいせきはつくつちょうさほうこく							
書名	水蔵場D遺跡発掘調査報告							
編著者名	稻垣尚美							
編集機関名	小杉町教育委員会							
所在地	富山県射水郡小杉町戸破1511							
発行年月日	2000年11月							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査の原因	
みずくらばでい 水蔵場D	とやまけん 富山県 いみずくら 射水郡 こすぎまち 小杉町 うわのあざ 上野字 たきひに 瀧谷	380	381219	36° 41' 03"	137° 05' 32"	20000515～ 20000526	80	浄土真宗親鸞会 正本堂建立に先 立つ本調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
水蔵場D	生産遺跡	奈良・平安	炭焼窯1基	なし	遺物の出土がないため 時期を特定できないが、 隣接する水蔵場H遺跡 の炭窯と非常に形態的 に類似する。			

### 水蔵場D遺跡発掘調査報告

平成12年11月1日

編集 小杉町教育委員会

発行 小杉町教育委員会

印刷 日興印刷株式会社

